

スツポンタケ

梅雨期から12月頃まで見られるキノコで、傘の形がまるでスッポンの頭部に見えることから、この名があります。幼菌は白いボール状で、触るとプニョプニョとした柔らかい感触を楽しむことができます。熟すと、あたかもメが孵化するように丸い幼菌の皮を破って傘と柄を伸ばし、高さ9〜15cmになります。風に胞子を運ばせる一般的なきのこの違い、先端に分泌される暗緑色の粘液に胞子が含まれています。独特な粘液の匂いに、誘われてやってきたハエは、脚に胞子を含んだ粘液を付着させて、本種の分布を広げる役割を担うことになります。粘液は悪臭を放つと言われますが、嗅いでみるとそれほどひどい匂いではありません。

なお、粘液を洗い流してゆがき、水にさらすと、中華風スープに使うことができます。



傘と柄を伸ばしたスッポンタケとなりに球形の幼菌が見える
(山田地区)



傘と柄を伸ばしたスッポンタケ
となりには球形の幼菌が見える
(山田地区)

おおい自然園園長 一寸木 肇

▲大井町の動植物や虫、石、自然観察会の結果などを掲載しています。

▲町内の身近な自然
情報をお待ちして
います。
※撮影は横位置で